



2026年3月ダイヤ改正は本当に無事に実施できるのか!? 団体交渉形骸化、労働組合軽視といわざるを得ない会社姿勢と 施策実施における業務の質を問う緊急申し入れを提出!!(その2)

《修正提案時の会社との主な議論》

組合: 2025年3月ダイヤ改正は多くのミスがあり、挙句に修正提案が実施されている。その際に会社も組合に謝罪をし、再発の防止を議論してきた。これまでの議論は何だったのか。ここまでミスが多いと、会社資料に記載がされている数字やデータは信じられない。

会社: 申し訳ないと思っている。謝罪しかない。今後このようなことが無いように対策をしていく。

組合: 原因は何だと考えているのか。

会社: ①モビサ内での情報共有と連携不足、②モビサと人事や勤労ユニットなど横のつながりへの共有と連携不足

組合: 組合への再提案が必要であると、モビサ内は誰も気が付かなかったのか。

会社: 当時この情報を知得していた者は誰も気が付かなかった。

組合: 労使議論や協約等の重要性が浸透していないことが問題ではないのか？誰も気づかないという事実が労働組合軽視の姿勢の現れである。労使議論や協約等の重要性がわからない者に施策を企画・立案する資格はない。団体交渉確認事項違反と認識している。協約違反、不誠実団体交渉と言われても仕方がないのではないのか？

会社: 組合を軽視しているつもりはない。協約違反、不誠実団体交渉にも当たらないと考えている。

組合: 提案や交渉の重さを理解しているのか。

会社: 理解している。施策は修正提案ありきでいたずらに内容を変更してはいけないというのが大前提の考え方だ。

組合: 今回の責任の所在はどこにあるのか？モビサか？

会社: 責任の所在は「首都圏本部」にある。

組合: 私たちの基本スタンスは、「責任追及ではなく原因究明をすること」である。今回の件について、首都圏本部の課員を含めて社員個人への処罰を行うことは決して許さない。

会社: 主張は了解した。

東地申第8号

「労働組合の存在を職場まで浸透させ、 健全な企業体質と組織体制を構築する」ための緊急申し入れ

1. 「JR 東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」、「2025年度駅業務関係施策(その2)について」の修正提案と、「2025年3月ダイヤ改正等について」、「2024年度営業関係施策(その3)について」及び『「2025年3月ダイヤ改正等について」の一部修正について』における提案資料の一部差し換えを2025年12月23日に開催するに至った経緯と原因、具体的且つ有効的な対策を実施する内容を明らかにすること。

2. 組織の再編等の施策が進む中で、関係箇所長や管理者等が、労働条件変更となる場合に労働組合との議論を経なければならない認識が見受けられないことから、JR 東日本の本体とグループ会社の社員まで、労使議論と労使合意事項、労働組合と労働協約の存在と意義を周知徹底し、職場でコンプライアンスを逸脱することがないような組織体制を構築すること。